四葉のクローバーと流れ星

sweli

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
四葉のクローバーと流れ星

【Ｎコード】
Ｎ７３３９Ｚ

【作者名】
ｓｗｅｌｉ

【あらすじ】
六人のさまざまな切ない恋の話。

照る照る坊主

五月の終わり。
蒸し暑い、梅雨の季節。
今日は、朝から雨が降っていて湿度が高くてじめじめしていた。衣替えにはまだ少し早いにも関わらず、教室内の生徒はほとんど夏服を着ていた。
日向明は、下敷きをうちわ代わりにして仰ぎながら窓の外を見る。外を歩く者はみんな傘をさしてうつむいて歩き、空からは灰色の雨があとからあとから落ちてくる。
日向はこの季節が一番嫌いだった。
昼休み、日向は教室でだらだらと友達と世間話をしながら過ごしていた。
「最近雨ばっかりでホント嫌になるよ。太陽も2日にいっぺんぐらいは顔出してくれないかな」
日向が友達に言う。彼の席は一番後ろの窓側の席。隣は空席で誰も座っていない。春は、ぽかぽかして気持ち良くていい席だと思っていたのだが、今はもう早く席がしたい。なんていうと、右斜め前の席の田辺巧は笑って、
「でもその席、寝ててもあんまり気づかれないし、いい席だぜ」
といった。田村は人懐っこくて、愛嬌のある顔をした男の子。高身長で格好よく、よく笑って明るいし運動もできる。友達が多くて女の子達にも大人気だ。人見知りな日向が一ヶ月でたくさん友達を作ることができたのは彼のおかげ。
「日本の夏って湿気が多くて大変ね。雨も多いし」
前の席の島田舞花がうんざりという表情で言った。島田は一ヶ月高校に進学すると同時にイタリアからきたイタリア人の女の子だ。背中まで伸ばしている長いブロンドヘアを左右の下のほうに三編みに結んでいてあまりオシャレなほうではない。だが、色白でおとなっ

ぽい整ったきれいな顔立ちで、スタイルもよく、元がいいため男の子たちの注目の的だった。証拠に、島田はたった一ヶ月で三人もの人に告白されている。どの人も女の子達から人気なイケメンだったのだが、彼女は結局誰とも付き合わなかった。なぜなら、島田にはすきな男の子がいるからだ。

「俺はこの季節は嫌いじゃないな。雨好きだし。しかし、今回は良く降るな、照る照る坊主でも下げとくか？」

島田の前の席、日向から見ると二つ前の席の山下誠が本を閉じて空を見上げる。田村の幼馴染で島田の好きな人でもある。読書好きで心優しくて勉強では同学年の誰にも負けなかった。だが、島田ファンのみなさんは彼のことを「茶髪の天然パーマで眼鏡。スタイルは悪くはないけどそんな運動もできないし、四組と格好よかったりするかもしれないけど地味で面白くないヤツ」と言い、「地味眼鏡野郎」と呼ぶ。

ちなみに、島田が山下のことを想っているというのは、ほとんどの人が知っている。島田自身は隠しているつもりでも、ちょっとした動作でバレバレ。山下本人も自分が島田に好かれているというのにきっと気づいていることだろう。

「照る照る坊主っ雨がやみますようにってつるすヤツでしょ？私始めてアレを見たとき、『首吊り自殺しろ』って呪う呪いの人形かと思って怖かったなぁ」

島田が言う。

「照る照る坊主って日本にしかないものね。外人から見たらそう見えるのかも」

夢野彩華は納得するようにうなづく。田村の前の席の人で、大人しい女の子だ。山下と同じく読書好きの優等生。数人の隠れファンがいて、最近その人たちからのストーカーされているのが悩みらしい。オシャレには木を使っているようで、持ち物が派手にならない程度に手が加えられている。友達を作るのは苦手なのだが、田村のおかげで高校に入って友達が増えた。

「日本にしかないんだ、照る照る坊主って。可愛いのにな」
田村がそういって、ポケットからティッシュを取り出し早速作り出す。日向もティッシュをもらって作ることにした。続いて山下と夢野の自分のを取り出し作り出す。島田は、しばらく見ているだけだったが、照る照る坊主作りに参加。十分後には五つの照る照る坊主が出来上がっていた。
五人は、作りたての照る照る坊主達をなかなか見つからないような窓の端っこに輪ゴムで引っ掛けて吊るした。
「明日天気になぁれ」
日向は、少し雨が弱くなった気がした。

☆

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7339z/

四葉のクローバーと流れ星

2011年12月24日11時48分発行